

第1回観光立国教育賞最終審査結果

2009.4.16 審査委員長 明石要一
(千葉大学教育学部 教授)

※学校名、学年は、応募当時(平成20年度末)時点でのものです

『観光庁長官賞』 2点

・広く全国の観光立国教育を推進できるものとして、今後の実践に大きく影響を与える可能性に特に富んでいるもの。

応募者名	授業テーマ	都道府県	学校名	学年
河田祥司	観光ブックで郷土「香川」の勢いを創る	香川	香川大学教育学部附属高松小学校	4年
【選考理由】	これを4年生の子どもたちが作成したのかと目を疑うほどのパンフレット群である。その裏には、教師の意図的な指導があることが応募された授業内容に端的にしかも順序立てて示されている。ここで示されたような「観光ブック」が各都道府県、地域で作成されていくとまさしく「観光立国日本」の素晴らしさを子どもたちが伝えていくことになると思われる。(実践レポート:P4参照)			
金子聡彦 海老名久美子 後藤潤一	ふやそう！笑顔、あふれる観光客！	山形	米沢市立北部小学校	6年
【選考理由】	6年生3学級学年全体で取り組む実践は、学年協同実践として極めて価値が高い。子どもたちの「追究したい」課題に応じて学級の枠を取り外して取り組むことは、3人の学年教師の研究の賜である。さらに、作成したパンフレットを地元のみならず、首都圏にも宣伝するという大胆な発想に基づき、そのパンフレットに感動して米沢を訪れる方が生まれるという事実が驚かされる。(実践レポート:P5参照)			

『静岡県知事賞』 1点

・静岡県の観光に光をあてた実践の中で、静岡県内及び全国の観光立国教育を推進できる可能性の特に高いもの。

応募者名	授業テーマ	都道府県	学校名	学年
高山佳己	「産業観光」を理解させ、産業観光パンフレット作りを通して、まちのよさを再発見する授業づくり	静岡	浜松市立舞阪小学校	5年
【選考理由】	全国的に有名な浜松の銘菓を取り上げた切り口の授業から始まり、産業観光といった新しい(今後の「観光」を変えていくジャンル)概念の提案を実践を通して創りあげている。また、子どもたちが実践した地元浜松のパンフレットも秀逸である。産業観光がメインになる市町村にもヒントを与える実践であり、他への波及効果も高い。(実践レポート:P6参照)			

『観光立国教育全国大会会長賞』 2点

・観光業界や地域との取り組み、連携など今後の観光立国教育の寄与に特に可能性を示すもの。

応募者名	授業テーマ	都道府県	学校名	学年
赤嶺美智子	自分たちの住むまちの魅力を知り情報を発信することをめざして ～「観光学習」で糸満市をアピールしよう～	沖縄	糸満市立糸満小学校	4年
【選考理由】	観光県沖縄の取り組みの一環として既に発行されていた「沖縄県めんそーれ～沖縄観光学習」テキストを活用しながら、糸満市の魅力を丁寧に見つけ出す学習活動が展開されている。しかも、観光行政に携わる方々など広く情報を集め、学校に招き、地域の方51名と学習を重ねたという学校と地域が連携しての「観光学習」が実践されている。今後の観光テキストを生かした学習の先駆けになる実践である。(実践レポート:P7参照)			
松崎 力	地域の良さを活かした新しい観光スタイルを発信しよう	栃木	茂木町立逆川小学校	5年
【選考理由】	「栃木」の魅力を引き出す単元研究計画及び実践が他に分かり伝えられるような形で、分かりやすく示されている。また、子どもたちが学習したことをまとめた表現(紹介)活動では、プレゼンテーションソフトをどの児童も使いこなしたリテラシーの高さについても評価が高い。研究及び実践をどのように組み立てていくか、今後の観光立国教育研究の一つの典型となる論文である。(実践レポート:P8参照)			

『審査員特別賞』 1点

・上記3点に準ずる作品として審査員が特に認めたもの。

応募者名	授業テーマ	都道府県	学校名	学年
津下哲也	郷土を愛する心を育てる授業～長船に伝わる刀剣の秘密～	岡山	瀬戸内市立国府小学校	3年
【選考理由】	3年生社会科では「学校の周辺」及び学区周辺がまず中心に扱われる。その3年生の発達段階や学習内容を踏まえて、極めて身近にある「地域の宝」を取り上げ、さらに、博物館と連携した取り組みを単元全体で創り出した実践は、3年生の地域学習を今まで以上に幅広く、深く扱うことができる提案である。また、博物館と連携しての「子どもガイド」という発想、実践は、今後の「観光立国教育」実践に大きな影響を与えるものである。(実践レポート:P9参照)			

『第1回観光立国教育賞奨励賞』 9点

応募者名	授業テーマ	都道府県	学校名	学年
川神正輝	島根の良さを島根の子どもたちに伝える授業の開発	島根	巴南町立石見中学校	4年
関口眞純	地域の「森村家」の絵に俳句を書いて、絵手紙として出そう	群馬	伊勢崎市立宮郷第二小学校	6年
松島正弘	観光立国・灰塚	広島	三次市立灰塚小学校	5、6年 (複式学級)
松垣和年	大分県と観光立国	大分	中津市立大幡小学校	6年
鈴木崇之	観光ペーパーチャレランを使い、郷土の観光地を学ぶ学習	福島	喜多方市立熱塩小学校	5年
伊藤秀男	活気ある焼津市にするために私たちができること	静岡	焼津市立豊田小学校	6年
上木信弘	福井県の食の観光資源「越前がに」と他の地域の観光資源を組み合わせ、1泊2日の観光ツアー・パンフレットをつくる	福井	越前市立吉野小学校	4年
伴 佳代	大草のまち・長崎の良さを全国に発信しよう	長崎	諫早市立大草小学校	4年
許 鍾萬	私たちの町の宝探しから～観光スポットを動画で発信しよう～	兵庫	兵庫朝鮮学園 西播朝鮮初中級学校	4年

【審査委員からの感想】

- 想像以上に熱心に、また深く「観光立国教育」を推進していることが判って感激した。
- 子どもたちの活動レベルの高さに非常に驚いた。
中でも、地域全体を巻き込んだ活動報告には目を見張るものがあった。
- どの作品もよくできている。観光を題材とした教育が実践されていることが作品から伝わってきた。
- 観光立国等の国の施策や基本報告に基づき、郷土の観光資源の発掘、観光交流など幅広く実践されている。いずれの作品もよく出来ている。
- 力作がそろっており、甲乙つけがたい審査であった。新しい発想や視点に学ぶことも多い。
- 地元の観光協会や博物館や旅館、物産展などとの連携を取りながら、幅広い勉強をしているのが印象に残った。観光の学習は、実体験が重要だと改めて思った。
- レベルの高さが印象的。これからこうした実践がさらに広がっていく上でも今回の意義は大きい。
- 自分たちの住む地域の、他にない特色、観光地としての「強み」を上手くアピールできている。
- 多くの先生方があの手この手で工夫され、取り組まれていることに驚いた。子どもたちが楽しんで授業を受けた姿が目に見え、子どもたちが作った数々の作品がどれも素晴らしく感心した。
- 先生方の熱意に感激した。故郷への誇りが感じられ、色々な切り口での掘り下げ、取り組みに感心した。
- 応募された各作品のレベルが高く驚いた。特に、学習全体の単元としての構造がきちんと設計され、知識、理解面の学習だけでなく、学んだ情報を子どもたちが活用していく姿が表現されているものは素晴らしかった。
ペーパーチャレランや観光はがき、観光動画などの取り組みも見られ、今後の可能性が広がっていると感じられた。

<観光立国教育賞審査委員会>

審査委員長	明石要一	(千葉大学教育学部 教授)
審査副委員長	新倉武一	(本大会実行委員会委員長 財団法人日本交通公社 会長)
審査委員	谷 和樹	(本大会実行委員会副委員長 玉川大学教職大学院 准教授)
審査委員	小林英俊	(本大会実行委員会副委員長 財団法人日本交通公社 常務理事)
審査委員	杉山裕之	(本大会実行委員会事務局長 特定非営利活動法人子ども未来 理事長)
審査委員	柵木鬼美夫	(本大会実行委員 社団法人日本ツーリズム産業団体連合会 事務局長)
審査委員	長嶋秀孝	(本大会実行委員 社団法人日本観光協会 常務理事)
審査委員	鈴木俊博	(本大会実行委員 T O S S 中央事務局 教育事業本部長)
審査委員	観光庁観光資源課より1名	
審査委員	静岡県観光局観光政策室より1名	